



新施設の名称は「アルクザカストリート」。二セコ グラン・ヒラフスキー場の南側に位置し、敷地面積は約3畝。緩やかな勾配のある長さ約200mの歩行者専用道路の両側に4〜6階建ての計13棟を建設し、下層階に店舗が並ぶ予定だ。店舗はレストランや服飾

アルクザカストリートの完成イメージ図（メトロポリー社提供）

ニセコ地域で初

香港企業 22年開業へ

【倶知安】香港の不動産開発会社メトロポリー・ホールディングス・リミテッドが、後志管内倶知安町山田に170室のコンドミニウム（分譲別荘）と106室のホテルに加え、60〜80店のショッピングモールを備えた複合施設を建設することが分かった。来春に本格着工し、2022年の開業を目指す。事業費は約230億円。同管内ニセコ町を含めたニセコ地域では初めての大規模商業施設となる。

（2面11コマ）

倶知安に複合商業施設

ホテルや店舗投資230億円

店、薬局などの誘致を想定しているという。同町のリゾート地区では高級別荘などの開発が相次いでおり、

外国人滞在客らを対象にした品ぞろえを図る。コンドミニウムは来年後半に分譲販売を始める予定。価格は未定だが1室数億円程度になるとみられる。施設内には屋外スケートリンクや250台分の地下駐車場も造成する計画。メトロポリーは中国を中心にアジアで不動産開発や管理を手がける企業。上海近くの崑山市で総床面積5万坪の物流倉庫を管理するほか、景德鎮市などでオフィ

スと住宅の複合施設開発などを進めている。日本国内での開発計画はアルクザカが初めて。同社の担当者は北海道新聞の取材に対し「ニセコは商機が十分にあり、さらに発展させたいと思わせる魅力的な土地だ」と説明。倶知安、ニセコ両町で既に複合施設の用地を取得していると明かし、アルクザカ完成後にさらなる投資を検討する考えを示した。

（堀田昭一）